

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【本太中学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	
思考・判断・表現	

①	今年度の課題と学力向上策	
	学習上・指導上の課題	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> どの教科においても、生徒の学力に大きな差が見られる。 <指導上の課題> 生徒自身が、何を理解できていて、何を理解できていないのかを確認する振り返りの時間の設定が少ない。	⇒ 授業の中でその授業ごと、単元ごとの振り返りの時間を設定する。【授業ごと、単元ごと】 家庭学習の質の向上のために、「スタディサプリ」「ドリルパーク」などの学習アプリを適切に活用できるようにする。(毎日)
思考・判断・表現	<学習上の課題> グループでの学習活動において、他の生徒から取り残されてしまい、学習が進まない生徒がいる。 <指導上の課題> 生徒一人ひとりが学びたい内容を学ぶことができる場の設定が不十分である。	⇒ 各教科において、生徒自身が目標を立て、学習を進めていくコンピテンシーベースの授業を実施する。【通年】 学校課題研修の一環として、指導者を招聘した研究授業を実施する。【2学期】

⑤	評価(※)	学力向上策の実施状況
知識・技能		
思考・判断・表現		

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	R7全国学力・学習状況調査において、全国平均と比較し、国語、数学ともに平均を上回るよい結果となっている。特に数学については、ほとんどの問題において10%以上平均を上回っており、生徒の学力向上が見られる。課題としては、国語において、思考・判断・表現と比較して、知識・技能の観点に関わる問題の正答率が低くなっている。また、全国平均と比較して、上回っているものの、差が小さい。今後、課題のより深い分析とともに、指導法について研修等で検討し、改善を図ってきたい。	
思考・判断・表現	R7全国学力・学習状況調査において、全国平均と比較し、国語、数学ともに非常によい結果となっている。特に、数学の正答率においては、思考・判断・表現に係る全ての問題で全国平均を10%以上上回っている。一方で、全国平均同様、記述式の問題について、国語、数学ともに正答率が他の問題と比較し、低くなっている。論理的に説明をすることに課題が見られるため、改善を図りたい。	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)
知識・技能	
思考・判断・表現	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	単元ごと、授業ごとの振り返りについて、学校課題研究の懸案の一つとして、研究推進委員会を中心に研究を進めている。教員間で授業を見合う取組を1学期に実施し、2学期以降も実施する予定である。	1学期に出た課題を改善するために、教員間で授業参観し合う「授業参観Weeks」を2学期に実施する。(1カ月間程度) 校内研究授業を3学期に実施する。
思考・判断・表現	B	各教科において、「個別最適な学び」、「協働的な学び」のさらなる実現に向け、研究推進委員会を中心に、主体的な研究が進められている。その成果としてこれまでの実践を土台にしながら、新たな視点や工夫を取り入れた授業づくりに挑戦する教員が増えている。	1学期に出た課題を改善するために、教員間で授業参観し合う「授業参観Weeks」を2学期に実施する。(1カ月間程度) 校内研究授業を3学期に実施する。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(おおむね達成) C 6割未満(あと一歩)